

「青少年健全育成のための学校・家庭・地域社会の連携についで」

山田裕一

〔質疑〕最近の青少年を巻き込んだ犯罪の多発など、その背景には家庭や地域の教育力の低下の問題があると考えられる。

また、核家族や共働きの増加に伴い、家庭で子どもをしつけたりすることや日本社会に受けつがれてきた社会規範が少しずつ失われていると思

われる。

家庭や地域が丸となって子どもたちをばぐくむ環境づくりとして「早寝・早起き・朝ごはん」国民運動や放課後朝ごはんの居場所づくりの『子どもの居場所づくり』のプランは、当市においてどのように発展させようとしているのか伺いたい。

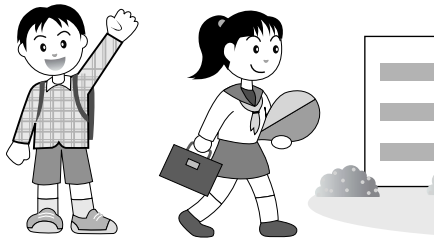
また、現在の学童保育（児

今後の分校の進むべき方向性について

沼倉啓介

〔質疑〕本年4月1日より福岡小学校長峰分校が休校措置となり、それらに伴う様々な物事に対応が図られたことは記憶に新しい事である。

益々加速する少子化の動きの中で、分校の今後とそれらから生じる問題点とそれらの対応策についてお示し頂きたい。



童館）とはどのように両立させていくのか伺いたい。

〔答弁〕生涯にわたる人間形成の基礎を培う上では家庭教育、それを取り巻く地域の教育力というのは、これはまさに大事な要素である。

世の中が急激に変化しており、中でも少子化と核家族化、この影響を受けた子どもの環境づくりというものは、非常に大事にしていかなければならないと考えている。

教育委員会等も特に子どもたちの規範意識、倫理観、社

会性を高めるということが重要な課題であると捉え、冊子を発行して、基本的な生活習慣の育成に努めている。

なお、指摘のあった「早寝・早起き・朝ごはん」の国民運動も当教育委員会でも重点事項に取り上げ、基本的な生活習慣を家庭でも地域でも養っていくという取り組みをしている。

一方、地域においては、文化、スポーツ活動、触れ合い活動の推進を図っている段階である。

その観点から学習集団としての機能、すなわち切磋琢磨する集団、学び合う、協力する、あるいは仲間づくりをするといった、集団維持機能を確保することが大きな観点になるのではないかと考えている。

一方、分校が持つ文化的、中核的役割は、その拠点として、見逃すことはできないと思っており、今後保護者を含めた地域の方々と話し合いを持つよう予定をしている。

現在の状況は、5月1日現

越河地区、斎川地区においては、子どもの居場所づくり実行委員会が立ち上がり、現在もこれを継続して活動している。

今後もこのような居場所づくりを拡大しながら、検討を加えている段階である。

学童保育とのすり合わせについては、放課後子ども教室事業は、児童館とは別に、今後社会教育課において、これらの推進事業の補助事業を活用しながら進めていく考えである。

在、八宮分校は1年生が3人、3・4年生1人ずつで合計5人。

不忘分校、3・4・6年生に1人ずつで、合計3人。

三住分校は、学区内にいる子どもの数は5人で、本校に4人が通っているため、4年生に1人となっている。

長峰分校の学区は、1年生が1人であるが、現在中学校で使っているスクールバスで通っている。